



発行者:社会福祉法人じねんじょ  
発行日:平成30年4月1日  
TEL:083-252-2227  
FAX:083-252-2259  
E-mail:jinenjo@jinenjo.or.jp  
<http://www.jinenjo.or.jp>

# 大地

(じねんじょ通信)

## ことばの力

長い人生の間には、思ったとおりに事が運ぶことばかりではなく、想定外のことが重なり辛くてたまらなくなる時があります。能天気にみえる私もあります。私は、そんな時、勇気や希望を与えてくれることばを自分にかけ、自分を勇気づけることにしています。ことばの持つ力は大きいようです。私の気持ちを元気にしてくれるいくつかのことばを紹介します。

### 天に貯金する

筑波大学名誉教授、村上和雄のことばです。「一生懸命頑張ったけどうまくいかなかった」と思えることは、誰にもあります。こんなときは、「今回は誰かのために役立った」と思うようにしています。誠実に努力していれば、目に見えない貯金となって天に蓄積され、後で利息をつけて必ず返ってきます。すぐに返ってくることもあれば、何十年後のこともあるかもしれません。ひょっとしたら、その貯金は自分ではなく、次の世代の誰かにしか返ってこないかもしれません。しかし、どこかで誰かの役に立っているのです。

### ネガティブ・ケイパビリティー

詩人ジョン・キーツのことばです。「容易に答えの出ない事態に耐えうる能力」「困難に耐え考え抜く力」です。時が早く動き、答えをすぐに求められることが多い時代なので、「問題があればすぐに解決しないといけない。答えをすぐに出さないといけない」と思ってしまいます。しかし現実には、答えがすぐには出せないこともあります。確かに早く答えを出した方が自分の気持ちはすっきりするのですが、逆に、性急すぎたのではないかと思うときもあります。ネガティブ・ケイパビリティーは、「すぐに答えがでないことに対して、辛抱強く耐える力」であり「悩む力」でもあります。「悩んでもいいんだよ」というメッセージを自分に送ったほうが、人生を楽に生きができるようになります。

### Tomorrow is another day

「風と共に去りぬ」の最後のシーンのスカーレット・オハラのセリフです。「そうよ、タラに帰りましょう。帰ってから、レットを取り戻す方法を考えましょう。After all, tomorrow is another day」で幕を閉じます。日本語版では「明日は明日の風が吹く」がぴったりの表現ですが、「今がどんなにつらくても明日という日は必ず来る。だから決してあきらめてはいけない。希望をもって生きよう。」という思いを込めたことばでもあります。

皆様も、お一人お一人が自分を勇気づけることばを持っておられると思います。機会があったら教えていただければ幸いです。

この1年の間に、メンバーの竹内友希さん、下道由幸さん、三谷優丈さん、香川沙織さんが天に召されました。それぞれの方は重ねた年月の長さは異なりますが、ご家族や沢山のお友達などと過ごされた素晴らしい人生だったと思います。今後も永遠に、じねんじょの歴史の中に、職員や他のメンバーさんの心の中に生き続けると思います。ご利用頂いた間、私も職員も多くのこと学ばせていただきました。誌面をお借りし、職員を代表してお礼を申し上げます。



社会福祉法人じねんじょ理事長  
金原 洋治

## 2017じねんじょフェスティバル開催

平成29年10月8日(日)にじねんじょフェスティバルを開催しました。

今回のテーマは「みんなあつまれ じねんじょ音楽祭2017」メンバーたちの大好きな音楽でいっぱいになって、地域の皆さんと一緒に楽しい時間を共有できたのではないかと思います。

ご参加いただいた皆さん、ありがとうございました。2018年もたくさんの方たちの参加をお待ちしております。ぜひ、じねんじょに遊びに来てください。



## 「成人を祝う会」を行いました

平成30年3月1日にグランドホテルにて、4名のメンバーの成人のお祝いをしました。

じねんじょでは、二十歳を迎えたメンバー、ご家族の皆さんに、心を込めてお祝いをしたいという思いから、毎年お祝いの会を開催しています。この度は、場所をグランドホテルに、日程も少し寒さの和らいだ3月に変更して行いました。

和やかな雰囲気の中、美味しいお料理をいただきながら、成人を迎えたメンバーには自己紹介を兼ねて、好きなことやこれからやってみたいことを披露していただきました。また、ご家族の皆さんには、名前の由来や二十歳を迎えた子どもさんへのメッセージをいただきました。心のこもった温かいメッセージから、ご家族の深い愛情、思いを改めて知る機会となりました。

誕生してから20年、成人という大きな人生の節目に関わることに喜びと感謝を感じながら、これからもじねんじょ職員一同、メンバーに寄り添い、共に歩んでいきたいと思っています。



## ポスコン?!2018に応募しました。

毎年、秋吉台国際芸術村で開催される「ポスコン?!2018」にじねんじょメンバーも応募しました。

今回は、県内外から1,062名の参加があり、1,346点の作品の応募があったそうです。多数の応募の中、厳選なる審査の結果、春永悠貴さん、今岡大輔さん、香川沙織さん、田中翔吾さんの作品が、一般の部で入選しました。

アートセラピストの藤井先生の下、活動の中でパステル画を描くことでゆっくりと色に触れ、色と感情の世界に親しみ、言葉でうまく表現できない「気持ち」「感性」をポストカードに描きました。



# 医療的ケアと制度改正

重症心身障害者地域生活支援センター センター長 石塚 忠志

今般の社会福祉法人制度改革にともない、社会福祉法人が地域において中核・主導的な役割を果たし、地域に対して貢献及び公益的な取り組みを担うことが今まで以上に求められています。また、国においては「我が事・丸ごと」で言われるよう、地域共生社会の実現に向けた議論が進められ具現化が図られています。

平成30年度には障害福祉サービス等の報酬改定があります。主な改定内容は、障害者の重度化や高齢化を踏まえた対応、医療的ケア児への支援や障害者の地域生活を支援するためのサービスの充実を図ることです。

その中で、じねんじょの利用者に関する「医療的ケアを必要とする方に対する支援」についての内容を紹介します。

- 医療的ケアを必要とする方を受け入れるために看護職員を2名以上配置している場合を評価され加算されます。
- 送迎において喀痰吸引等の医療的ケアが必要な場合があることを踏まえ、手厚い人員配置体制で送迎を行う場合を評価され加算されます。
- 計画相談支援・障害児相談支援の相談事業においても、要医療児者支援体制加算の創設ということで、医療的ケアを必要とする方やより高い専門性が求められる利用者を支援する体制を有している場合を評価されます。また、医療・保育・教育機関等連携加算も創設され、医療機関、保育機関等と必要な協議等を行った上で、サービス等利用計画を作成した場合に、新たな加算として評価されます。
- 新たに居宅訪問型児童発達支援が創設されます。この事業は、医療的ケアが必要であって、障害児通所支援を利用するため外出することが著しく困難な障害児に対し、居宅を訪問して発達支援を行う事業です。

このように、医療的ケアを必要とする方に対する制度や報酬の改定が多く盛り込まれています。社会福祉法人じねんじょは、重症心身障害者地域生活支援センターとして主に重症心身障害児者、医療的ケアが必要な方々への福祉の提供をしています。そして数年前から、通所が困難な子どもにとっても療育支援及び子育て支援が必要であると認識し、居宅への訪問活動をしています。この度の改定において、法的に認められ評価されたことを大変うれしく思っています。

これからも、メンバーたちが地域でよりよい生活を送ることができるよう、皆さまのご理解とお力添えを宜しくお願いいたします。

## 「感謝」

平成29年5月31日に長門市日置上のヤマネ鉄工建設株式会社（山根正寛社長）より社会福祉法人じねんじょへ1000万円のご寄付をいただきました。感謝の気持ちを形にと思い、寄付金で利用者送迎や外出の活用として、車両を購入させていただきました。

この車両は、車イスを4台乗せができるリフト車両です。重症心身障害児・者の福祉を提供している「じねんじょ」では、リフト車両はなくてはならないものです。

「ありがとう」の感謝の気持ちを込めて、車両のバックドアにはヤマネ鉄工建設株式会社のロゴマークを表示し、愛称「ヤマネ号」と呼び大切に使わせていただいている。



## ふくし生活SOS相談所ご案内

社会福祉法人じねんじょは、「下関市社会福祉法人 地域公益活動推進協議会」に加盟しました。平成29年12月1日より開始した、地域公益活動の一つでもある“ふくし生活SOS事業相談所”として、相談窓口を担うことになりました。

ポスターにもあるよう、ピンクののぼりが目印で、じねんじょ入口にも掲げてあります。

市内にある社会福祉法人の内53法人が加盟しており、それぞれ相談窓口として機能しています。お困り事等ありましたら、のぼりを目印にまずはお気軽にご相談ください。

### 連絡先

社会福祉法人じねんじょ

TEL:083-252-2227 FAX:083-252-2259



## 難病者アート展 つながるちから ~ Take Action Now ~

### むくっこメンバー、むくメンバーの作品を展示していただきました

RDDとは、世界希少・難治性疾患の日を言います。より良い診断や治療による希少・難治性疾患の患者さんの生活の質の向上を目指し、スウェーデンで2008年から始まった活動だそうです。日本でも趣旨に賛同された「NPO法人おれんじの会」の皆さんのが2010年から2月最終日にイベントを開催しておられます。

この度のテーマが「つながるちから」で、地域の一般の方に共に生きる私たちの存在、みんなつながっているメッセージを届けるために、私たちと連帯して取り組みたいというおれんじの会の皆さんから「作品展示をしませんか」と声をかけていただきました。そこで、むくっことむくのメンバーたちが日ごろから活動でとりくんでいるパステル画を中心に出展しました。

「心のバリアフリー」という言葉があります。誰もが暮らしやすいバリアフリー社会を築くためには、物理的なバリアよりも、実は心のバリアを取り除くことが難しいと言われています。例えば、障害のある人や高齢者と接したときに、どう手を貸せばいいのか戸惑う人、障害者用のトイレや駐車スペース、交通機関の優先席が適正に使用されていない場合が多いことがあります。

昨年の毎日新聞の記事に、東京都が心のバリアフリーの現状を把握するために1200人を対象に行ったアンケート結果の掲載がありました。それによると、路上や交通機関で障害者や高齢者が困っているのを見かけた時に、積極的に声をかけ、「手助けをする」と答えた人は全体の2割にとどまっています。内訳を見ると、家族に障害者や介護が必要な高齢者がいたり、子育ての経験があつたりする人の割合が高かったとのことです。年代別では19歳以下で「手助けをする」人が1割程度でした。また「しばらく様子を見る」「何もしない」と答えた人にその理由を聞いたところ、「どうしていいか分からない」という人が4割でした。

心のバリアフリーをさらに推進していくことが、誰でも暮らしやすい社会をつくるためには必要です。先ほどのような状況をどう変えていくのか。私たちはメンバーと行う日中活動だけではなく、じねんじょ公開フォーラムや馬関祭りやフェスティバルといった地域住民への情報発信や交流も大切にしています。今回のように地域で活動されている方たちとの協働も必要であり、今後もこのような機会に積極的に参加できればと思います。



### 寄付者氏名(敬称略、順不同) 平成29年8月1日～平成30年3月9日

オニオinz  
吉竹明子  
田中和子(あつきーすまいる)  
花笑み  
明本治男  
やまぐち小児科

さをり織サークル  
じねんじょ窓  
れんげ畠  
梅光学園幼稚園  
梅光学園幼稚園保護者会  
六人会

下道広美  
株落合商会  
柏あゆみ・福嶺麗加  
香川中

ありがとうございました。

### 編集後記

いつの間にか鳥の声・桃色、黄色といろいろな花の香りを伝えてくれる季節になりました。自然の恵みと生命の出会いを大切にしていきたいです。

多くの方たちの支えと協力で日々の生活や活動を楽しむことができていることに感謝いたします。

